

## はじめに

本報告書は、千葉大学大学院人文社会科学研究科のプロジェクト「地方都市におけるコミュニティ形成・醸成についての調査研究」の研究成果をまとめたものである。このプロジェクトは、コミュニティの醸成プロセスを社会学および文化人類学の視点から調査研究することを目的として2015年度より開始され、各自が自身のテーマと関心に基づいた調査・研究をしながら、定期的に情報共有や意見交換をする形で進められた。

テーマ設定のきっかけとなったのは、佐藤敦と田川史朗に共通していた東北地方に対する関心である。たとえば宮城県仙台市は、東京圏から見れば距離の面でも環境の面でも「地方」であるが、その一方で東北地方においては最大の「都市」である。こうした地方都市においては、住民（生活者）同士、居住者（旧住民）と新住民や観光客などの外部から来た者、生産者（サービス業従事者を含む）と消費者など、さまざまな関係性が築かれ、コミュニティが形成されている。こうした関係性構築のきっかけはどこにあるのか。また、関係性を継続し深めていくこと、すなわちネットワークを形成しコミュニティを醸成していくために共有されている要素とは何か。これらを読み解くことで、新たな視点でのコミュニティや文化、都市計画のあり方を提案することにつなげたいと考えた。

プロジェクトの調査対象地域は限定しなかったが、結果として本報告書には、東北地方に関する論考を5本収録することになった。しかし、地方都市において当該社会と密接に関わっている調査対象であることを共通項としたため、テーマ的にはかなり広がりのあるプロジェクトになった。

各論文のテーマは以下のとおりである。

第1章で佐藤は、地方都市における地域活性の取り組みがどのような属性の担い手によってつくられているのかを分析し、彼ら（「ローカルプレイヤー」）の地域における関係性構築に、取り組みを進めるポイントとなる特徴を見出している。

田川による第2章では、コミュニティ形成の出発点である他者との関係性構築のきっかけとして、東北を中心に活動を続ける「ゆるい」つながりを持つ集団の事例を取り上げた。彼らの形成するネットワークを分析し、集団の中で自由を共有・保持しながら活動を継続する要因について論じている。

第3章において、西田恭介は、薬物依存症者の更生支援施設スタッフへのインタビューに基づく調査報告を行っている。スタッフ自身の体験についての語りを交えながら、依存症者の感情の変容に影響する二つの概念の重要性を提示している。

第4章は、千葉の有機農業運動に関する研究についての報告である。吉岡洋介は、千葉エリアの産直や産消提携の実態を明らかにするためのパイロット・サーベイを行い、その概要と基礎分析についてまとめている。千葉県の6市を対象としたWEB調査によって、2011年3月の東日本大震災とそれに伴う原発事故以降のライフスタイル、消費行動の変化に関する知見が得られ、産直、産消提携の利用実態を説明するためのモデルを考える上での示唆を得ている。

第5章は米村千代による書評論文である。コミュニティの歴史社会学という観点から、農村社会学者の細谷昂が執筆した東北日本の家と村に関する研究の書評論文を寄せている。

5本の論文は東北に関する研究であるというゆるやかな共通項を持つものの、対象としている地域やテーマ、関心には幅がある。人々がどのようなきっかけでどのような共同性を構築するのか、それらの強さやゆるさ、持続可能性についての事例報告である。各人がそれぞれの専門領域において、今後、さらに研究を深めていくための一ステップと位置づけたい。

## 謝 辞

最後に、それぞれのメンバーが論文を執筆するにあたり、調査にご協力いただいた皆様に心より御礼を申し上げます。事例研究、参与観察、インタビュー、アンケート調査、いずれの方法をとるにせよ、私たちの研究は、調査研究を理解し、協力してくださる方々なくしては成り立ちません。プロジェクト報告書は、それぞれの研究の入り口であり、これからまだまだ研究を深めていくことが必要です。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

米村千代・田川史朗